

奥で文字夫人がオランでゐた。

袋に空豆を一杯持て来たのを新吉は出して、唐饅の餡にユズが入つてゐるからなどと、無想庵に食べる事をすゝめた。

「裾野で、不二山の麓だが、道場を開いてる男から、頻りに来い〜と言つて来るんだ。

一週間ばかり行かないか。

坐禪なんかやるんだらう。

汽車で行けば譯ないからね」

文字夫人が奥から、出たり入つたりしだした。

新吉は無想庵から六神丸を貰つて飲んだ。

「腹痛にも頭痛にも素的に好く利くんだ。」

空は曇つてゐた。

「僕のワイフもシヨツ中至る所が悪るいんでね、毎日東京へ行つてゐるんだよ。

隋子や子供は流行服を教へにね。」